

一枚の新聞一枚の葉書であつても將士にとつては最大の歎感激であつて敵の牙城に迫る進軍に後方補給が絶え勝ちな時ですら「食糧より郵便が欲しい」とは勇士の異口同音するところである、心の糧道こそ銃後の大きな努力と云はねばならぬ、開戦以來三周年に及んで軍事郵便の數も漸く減せんとする傾向にあるは甚

て應否前まで同村の蟻塚族
鑛につとめてゐた、實家に
は兩親と弟妹五人あり農業
を營んでゐる、

未だ微傷 平磐翠署出身 拜啓、お喜くなりました、其の後は御無沙汰致しました、此の度は御子様達の御寫真有難うござります、何しきは郷里の方々のお姿です、御立派になる様御祈り申上げます、降て小生今向は戦闘に参加いたし不及を

相樂 薫
負はず

三重縣多賀郡領
初秋掃立三五グラム、上
收量三九貫九八〇、貢當
一〇圓五三、總價三一五
六九、十瓦收蘭八貫五六
玉中蘭收量〇貫九三〇、
當價七圓五〇、總價六四
〇、蘭綿代金六圓〇〇、
計收蘭三〇貫九〇〇、貢
代金三二八圓五九、

田村夏兒 栗田定作氏口述
晚秋掃立五五グラム、レ
收量四四貢五八〇、貢當
一三回八四、總價六三〇
七四、十瓦收繭八貢二二
玉中繭收繭八貢三二〇、
當價九圓五〇、總價一一
五四、繭綿代金八圓〇〇
計收繭四六貢九一〇、
賣上代金六五一圓二八、

五〇、貰十一圓八十二錢、
八〇、貰一千五百七十二圓卅九錢、
瓦當り八貲八七三(以上上
額千五百七十二圓卅九錢、
王中蘭は四貲〇八〇、貰當
八四六〇、この合計三十一
〇八、蘭綿代金は廿六圓
計總收百卅七貲一七、價
百卅四圓四十七錢を得た
に現金支出計算を上ぐれば
◆肥料代一五〇圓八八

總十
價圓四合次九、勞步當り現金收入七百七十
五十三錢を得た、
三百八十八圓七十四錢、
四四四十七錢、支出合計
四十五圓七十三錢、差引
で齎賣上げ總代金千六百
圓六〇◆諸雜費電氣料
〇◆合計二四五圓七三

平市愛婦 明後五日

公會堂日本間で、の役員會

(二三)がある
□平山寅雄上等兵、勿來町
字町通り出身、富田部隊に
屬し中支戦線で戦死せるは
既報したが、同君の留守宅
は父三太郎さん(妻)母いし
さん(妻)と弟妹三人がある
軍部へ供出する
梅干の漬け方
各地から希望
縣副業課では四倉町愛婦、國

に福田主事及び嘱託講師中川女史を派し昨二日午後三時から町役場で軍部に送る梅干の本當の漬け方を指導したが前記兩婦人會員四十余名の受講者があつたので郡農會では各地の催を斡旋すべく計畫中であつて既に郡南部から山田村の申込みがあり平市農會でも同講習を開かうと心組んでゐる

上候、降て私共一同御歎嘆にて益々元氣にて聖業に精進罷在候間乍他事御安心被下度候、陳者最近内地よりの通信によれば物資は極度に欠乏品物によりては手難の由誠に痛心事に御座候、當地も物資の統制は強化され物價は高騰し現在食鹽及び石油、マツチ、豆油等の欠乏にて相當生活の困満を欠き居る様子に候も共開拓闢は満拓及び満洲吏消費組合等より特種の母

し酒の組、餅の組と二組
別し祖國を去りての第一「
の節句を元氣滿々味ひ申す

湯本警防團の 記念事業

平市九品寺では例年の如く
繁期託兒所を開設四十余名
入所を見てゐるが園児のモ
品その他四十個を戰線勇々
贈る慰問袋へ加へられた
昨二日市役所に託した



新開社	新開社	新開社

支那單語

あなたにとんでもない風呂場合が悪いのですかと云ふ場合をニーツォンマンブーシューフラニと唱ひ、私は頭が痛いですと云ふなら我脇容姿でウオナオタインと呼び唱ひてゐる。

惠まれた生活に喜び
(満洲)石城集合開拓
謹啓、初夏の候尊嘗々様
(上) 渡邊村の田野出身
間島省延吉縣光兵台 小野吉次郎
は湯を入れかき

防部酒井善雄氏(呉)本年
月自動車ボンブ演習練習
公傷へ七回▲同菊地交見
(充)五月十二日神谷村廢
火災に出勤作業中負傷し

幼兒の眞心

ボスター
等安田
長野登

卷之二十一

卷之三

我用黑墨水

卷之三

4

